



あした

明日もしあわせ通信 (第40号)



子ども総合センターだより
令和元年10月号



平和を呼ぶ子どもたちの笑顔



今から115年前の明治37(1904)年9月25日、郡中の有志がロシア兵捕虜26名を彩浜館に招待しました。松山駅(現在の松山市駅)から一等車を二両増結した坊っちゃん列車が出発。捕虜として来ていたトルストイの門下生だった軍事通信員のタゲーエフ少尉は、こんなことを書き残しています。

彩浜館は広大な敷地に建てられ、二階に上がると、私たちをもてなすためにお茶やお菓子が見栄えよく並べられていた。二階から四方を眺めると、無限に広がる海、海岸に沿って小さな村、手前の入り江には多くの漁船。その風景は美しいばかりか立派なパノラマのようだ。彩浜館の周りにはロシア人を見ようとして子どもが群がっている。顔には愛らしい笑みが浮かんでいる。私たちはこんな人たちと戦争しているのだという気持ちが突然湧いてきた。

(宮脇昇・著「ロシア兵捕虜が歩いたマツヤマ」より)



子どもたちの笑顔が平和を呼んでいるのです。笑顔という宝物がなくなることはないよう、子ども総合センターも励みたいと思います。心配事がありましたら、気軽に相談にお起こしください。(N.T)

ロシア兵捕虜が大層喜んだので翌年2月に再び招待。五色浜神社で記念写真を↑



☆いよじょのしゃべり場☆

10月23日(水)

参加してみませんか♡



適応指導教室「はばたき」 ～よくある質問から～

保護者の方の中には、子どもたちの日々の様子を見ながら「これはどうかな?」と思われることがあるのではないのでしょうか?気になることがありましたら、何でもご相談ください。よくある質問の一部を紹介します。

Q 「寝られないといって夜遅くまで起きているので朝起きないのですが、起こした方がいいのでしょうか?」

A 不登校は、時間がたつにつれて心は安定してくるのですが、「生活習慣」が問題になってきます。学校に登校しなくても、きちんとした生活習慣を送ることが大切です。朝になったら保護者の方が声をかけ、カーテンを開けて朝の太陽の光を浴びる習慣をつけさせてほしいと思います。

Q 「学校を嫌がり、家でもほとんど勉強しないのですが、どうしたらいいのでしょうか?」

A 学校に行きにくくなると勉強が手につかなくなり、家で勉強している子の方が少なくなる状況です。勉強が遅れていることは何より本人がわかっていて、不安にも思っています。不安をおおるような言葉を控え、少しの時間、趣味や読書に没頭させてあげると、しばらくすると、勉強もしてみようかなという気持ちに変化してくる場合があります。いかがでしょうか。

ファンタジーは心の栄養 生きる力をあたえる

映画「天気の子」を見ました。映画館には大勢の小・中学生やその親、祖父母たち、若者が見に来ていました。映像の緻密さとその描かれた世界の中の光の存在が美しく、ファンタジーの世界を堪能しました。また、今の社会問題も描かれていて考えさせられる映画でした。

ファンタジーの世界は、子どもたちにとっていつごろから現れてくるのでしょうか。

子どもは積み木をマイクにしたり組み立てて家にしたりと、「見立て」遊びから、幼児期のままごとなどの「ごっこ」遊びができるようになります。

また、言葉は片言の言葉から2歳・3歳にかけて言葉がふえるにしたがい、自分の経験をもとに想像世界をつくり出し、それを言葉で表現して「物語」を語れるようになります。5歳後半になると想像する力が付き「夢」や「過去の思い出」を使ったファンタジーをつくることができるようになります。ファンタジーは子どもたちの心に栄養を補給するとともに、そこから未来をつくる力が育っていくのです。

たくさんの若者たちがこの映画を見ていることがうれしくなりました。(T)

伊予市子ども総合センター

伊予市尾崎3-1

総合保健福祉センター2階

(電話) 089-989-6226

センター長のつぶやき

「あ！未奈子ちゃんだ」

港南中でのこと。正月にもかかわらず運動場で黙々と走る生徒がいた。その姿に感動し、3学期の始業式で全校生徒にそのことを伝えた。その子は、県の中学生2人を代表して都道府県対抗女子駅伝を走り、高3でも全国高校駅伝で都大路を駆け抜けた。

その後、視覚障がいがある方の伴走者の道を歩み、なんと「リオパラリンピック」で近藤寛子さんの伴走者として5位入賞を果たした。

(高3 全国高校駅伝)

先日の24時間テレビで突然彼女が映し出された。「あ、未奈子ちゃんだ」と叫んでしまった。正月にも走り続けていたあの生徒である。美奈子ちゃんは、視覚障がいのある少年と、その伴走をする父の指導者として登場していた。有働アナウンサーの「自分が一人で

走っていた時と、伴走者とどっちが楽しいですか」との問いに「断然伴走者として走ることが楽しいです」と答えた。ここにもすばらしい女性へと育った卒業生がいる。この子たちと過ごすことができた日々は、生涯の宝物である。(DOI G)

(中3 都道府県対抗女子駅伝)



《巡回発達相談》

「しあわせの条件」

絵本を毎日借りて帰って読み聞かせをしているお母さん。その後も続けておられます。A君は寝る前に絵本を読んでくれるお母さんのことが大好き。言葉の数も増えてきました。「お友だちと仲良く遊んでね」と次の日の園での約束をします。おもちゃの取り合いをすることがあったA君は「かして?」「いいよ!」のルールを覚えてきました。お迎えの時、先生から「お友だちと仲良く遊べたね」と褒められました。お母さんとの約束を守ったA君に、ぎゅうっと抱っこのご褒美。二人の後ろ姿を見送る園長先生に温かい眼差しがあります。物語の中の主人公のように育てようと毎日努力するお母さんに拍手を送りたいです。

「人間が幸福を感じる4つの条件」があると聞いたことがあります。①人に愛されること。②人に褒められること。③人の役に立つこと。④人に必要とされること。どの子も幸せに生きるために、家族に愛され、褒められて育ててほしいと願わずにはられません。(K)